

2017.9.24 年間第 25 主日

天国の失業保険（給付）

マタイ福音書 20 章 1-16

（そのとき、イエスは弟子たちにこのたとえを語られた。）「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすることは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

説教

<あとと先>

このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。 マタイ 20:16

スーパーマーケットの陳列で消費期限が先のもの、後のものが同じ棚にあるとします。たとえば豚バラ肉が消費期限が24日、25日、26日と表示のあるものが並んでいるとつい26日のものをカゴにいれませんか？「後にいる（消費期限の長い）肉が先になる」順番で行けば24日のものから消費していくことがいいと思いますが、なかなかそうなりません。たいてい24日の肉が手前の取りやすい場所にあるのですが、多くの人は奥のほうから選んでかごに入れます。

<1デナリをめぐる攻防>

あれ、1時間しか働いていない奴が1デナリもらっている、ずいぶんと気前のいいご主人様だ。とすればオレはもっともらえるぞ、なにしろ朝一番から汗だくで働いたんだから、とだれでも思うでしょう。でも、さいごになって給金をもらったら1時間だけ労働者とおなじ1デナリでした。文句をいいたくなりますよねえ。で、文句をいいたら「このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」とかえってきました。

<世界の失業者、86%が失業給付なし 日本は79%> ILO調査 2012/11/15付
国際労働機関(ILO)は14日、世界の失業者のうち、86%が雇用保険などの支援を受けられていないとの調査結果を発表した。調査対象の198カ国・地域のうち、雇用保険などがあるのは72にとどまった。ILOは「失業者の保護は急激な需要減退を防ぐ効果がある」と指摘し、加盟国に制度の導入や運用改善を呼びかけている。

国別の非受給者の比率をみると、日本では79%が失業給付を受け取れていない。ILOは短期の非正規労働者が雇用保険を受けにくいことも問題に挙げており、日本でも人員削減の対象になりやすい非正規労働者が数値を押し上げているとみられる。この比率が最も低いのはドイツの2%。総じて先進国で低く、途上国で高い。

ILOは若者ほど就労期間が失業給付を受けるのに不十分なことが多いとも指摘。こうした問題に対応した社会保障制度を設けているのは16カ国しかないという。(ジュネーブ＝原克彦)日経新聞電子版9/24より抜粋

https://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1408N_V11C12A1EB2000/

すこし調べてみたところ失業者に手厚いのはフランスのようです。約3年間は手当が支給されるようで、反対にアメリカではほとんど支給なしのようです。日本もどちらかというとなアメリカ型でしょう。

<応報思想>

神は人の働きに応じて報いを与える。これは応報思想、因果応報って考え方です。その逆というと、神はどんな人にも必要な恵みを与える、という考え方になります。失業者に対する考え方ではアメリカが「応報型」フランスが「恵み型」といえるでしょう。きょうの福音は応報を説いてはいません。必要な恵みを同じだけ(1デナリ)与えるという恵み型です。

きょうの福音を公平公正という観点からみればアレー???ということにもなりますが、目線を人間の考える公平公正ではなく、神のおもいという観点に思いをめぐらしてごらんくださいという薦めになっています。朝から働いてる長時間労働者もさいごのチョットだけ働いた人も同じ1デナリ。神さまは後とか先とか分け隔てをしていません。神には時給いくらという考えはないようです。まして能力給なんて思ってもいないでしょう。神から見れば人間なんてみんないっしょ、同じです。

<後と先(おまけ)>

あとさき考えず、という言葉がありますが無分別とか考えが足りないなど悪い意味でつかわれることばです。スーパーでいえば先のもの(消費期限が長い)から売れ、あとのもの(消費期限が短い)ものは売れ残ります。そして3時ごろには20%オフになり5時ごろには半額になり、7時ごろには捨て値で販売されることもあります。

「ブドウ園の労働者のたとえ」と見出しががついている今日の福音をこの「あ

とさき」で受け取るとなんかへんなたとえになっていくようです。日雇い労働者のたとえを語るイエスは仕事にあぶれた日雇い労働者をどのように救うのか、仕事にあぶれる = 失業者をどのようにあつかうことが神のみこころなのかと、わが身によせて思いめぐらせよと世界に向けてつきつけています。
